令和７年度事業報告

（令和 7 年 7 月 1 日～令和 8 年 6 月 30 日）

特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議

１．基本方針

「特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議」（以下「研究会議」という。）は、平成 25 年 4 月 1 日に「瀬戸内海研究会議」を改組し、特定非営利活動法人として発足した。研究会議は、新たな組織体制のもと、瀬戸内海の環境を取り巻く情勢変化に対応し、次の基本方針に基づく諸事業を推進している。

(1) 研究会議は、自然科学はもとより社会科学、人文科学等を含めた学際的な集団であり、また、学・産・官・民の研究者等の集合体でもあることから、会員の研究発表及び会員相互の情報交換の場として組織の充実を図る。

(2) フォーラムやワークショップを開催するなど、調査・研究の成果及びその他の関連情報（環境保全・創造をはじめ、地域づくりや観光・産業の振興等を含む。）の交換と普及を図る。

(3) 瀬戸内海の環境の保全と適正な利用について研究し、必要な提言を行う。

(4) 国、地方公共団体等が行う瀬戸内海に関する調査・研究に協力するとともに、助成財団等からの調査・研究助成の獲得に努める。

(5) （公財）国際エメックスセンターが行う世界の閉鎖性海域環境保全活動への参加、協力を行うともに、関係団体と交流し、学際的な情報と技術の交流を図る。

(6) （公社）瀬戸内海環境保全協会が実施する調査・研究・教育及び普及啓発に係る各種事業に対して、必要な助言及び支援を行う。

２．特定非営利活動に係る事業

(1) 調査研究に関する事業

①「瀬戸内海の環境保全・創造に係る研究委託事業」の実施

ア　「令和７年度瀬戸内海の保全・創造に関する研究」の実施

研究会議は、瀬戸内海環境保全知事・市長会議（以下「知事・市長会議」という。）からの委託を受け、瀬戸内海の環境保全・創造に係る研究を実施した。

(ｱ) 研究期間　令和 7 年度～9 年度

(ｲ) 研究テーマ及び実施方法

令和 7 年 5 月 27 日～6 月 17 日に募集し、同年 6 月 23 日に選考・採択した２件のテーマに対して助成し、研究を進めた。採択した研究者、テーマ、助成額は以下のとおり。

テーマ１　瀬戸内海における栄養塩類増加措置の生態系への効果把握に向けた研究

研　究　者：山本　昌幸（福井県立大学海洋生物資源学部　教授）

設定テーマ：簡易型プランクトン画像撮影装置を用いた瀬戸内海のマイクロプランクトン分析

助　成　額：150 万円／年

テーマ2 陸域から瀬戸内海に流出するプラスチックごみ量の推計方法に関する研究

研　究　者：石塚　正秀（香川大学創造工学部　教授）

設定テーマ：瀬戸内海流域圏におけるプラスチックごみ原単位の推定

助　成　額：150 万円／年

(ｳ) 推進体制

駒井　幸雄（総括）、吉江　直樹（テーマ１担当）、原田　禎夫（テーマ２担当）

(ｴ) 研究目的

テーマ１ 瀬戸内海における栄養塩類増加措置の生態系への効果把握に向けた研究

前課題において構築された統合モデルは、水温や栄養塩類の変化が瀬戸内海の高次生態系に及ぼす影響を検証する方法として有効であることが示唆された。しかし、魚類を含む高次生態系までを含む統合モデルの精度向上には、まず低次生態系モデルの精度向上が必要であるため、「フロースルー式顕微鏡」や「AI 自動顕微鏡画像解析法」や「サイズ分画濾過法」などによる、瀬戸内海の動・植物プランクトンのサイズ組成と種組成を取得する研究方法を確立し、各海域でのデータを使った統合モデルの精度向上を図り、各海域への適用に資する研究を公募する。この研究では、栄養塩類増加措置を実施する水域などの局所的な効果や気候変動による水温上昇による生態系への影響の検証も試みる。

テーマ2 陸域から瀬戸内海に流出するプラスチックごみ量の推計方法に関する研究

令和４～６年度の研究により、河川から海域への河川浮遊ごみの量や動態は降雨の影響が大きく不確実性が高いことから、年間を通した継続的な調査が必要であり、陸域から瀬戸内海に流出するプラスチックごみ量の推定やごみ対策を行う上で基本となる原単位を推定する必要のあることが示された。本研究では、ごみの原単位についての既往の調査結果を整理すると共に、土地利用形態や産業、人口等が異なる流域を対象とした実態調査を実施し、陸上から河川を通して瀬戸内海に流出するプラスチックごみ量について背景の異なる流域での原単位を推定するための研究を行う。

(ｵ) 事業の実施状況

R7.10.17	令和 7 年度研究計画発表会 （第 1 回知事・市長会議 WG も兼ねる）
R8. 3.12	令和 7 年度研究成果発表会 （第 2 回知事・市長会議 WG も兼ねる）
R8. 3.31	令和 7 年度事業実施報告書を知事・市長会議に提出

②「大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成制度」に係る受託業務の実施

ア　令和７年度助成研究結果の報告及び成果発表会の開催

大阪湾広域臨海環境整備センターが創設した「大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成制度」により令和７年度に助成を受けた大学・研究機関等による研究の結果をとりまとめ、大阪湾広域臨海環境整備センターに報告を行った。

また、令和７年度に助成を受けた大学・研究機関等の成果発表会を開催した。

・日　時：令和８年５月 13 日（水）　13：30～16：30

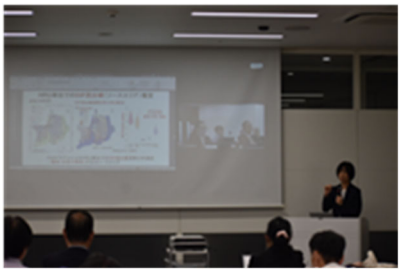
・場　所：スペースアルファ三宮　大会議室
（兵庫県神戸市中央区）

・参加者：60 名（うち、Web 参加者 37 名）

・内　容

◆ 開会・挨拶

林　里香（大阪湾広域臨海環境整備センター常務理事）



◆ 個別発表

助成を受けた次表の大学・研究機関等から研究成果について発表があった。

発表順	発表者氏名	所　属　名	研　究　課　題　名
1	近藤　健	大阪府立環境農林水産総合研究所	新規簡易測定法による大阪湾底質の酸素消費速度の水平分布および季節変動
2	岩本　洋子	広島大学大学院統合生命科学研究科	大阪湾圏域における二酸化炭素およびメタンの海洋表層の溶存期待濃度と海洋大気間の気体交換量の時空間分布の評価
3	齋藤　光代	広島大学大学院先進理工系科学研究科	流域の水利用・水循環の変化を考慮した流出変遷が大阪湾の栄養塩循環に及ぼす影響の評価
4	内田　雅也	有明工業高等専門学校創造工学科	大阪湾圏域のネオニコチノイド系農薬代替品の汚染実態と環境リスクの解明流
5	上田　萌子	大阪公立大学大学院農学研究科	大阪湾沿岸における海浜植物の分布の変化と保全に関する研究（その２）
6	南館　健太	東京大学大学院理学系研究科	地質記録に基づく過去 1000 年にわたる大阪湾圏域の津波・高潮の実態解明

イ　令和８年度「大阪湾圏域の海域環境保全・再生・創造に関する研究助成制度」に係る業務の受託

大阪湾広域臨海環境整備センターから、令和８年度「大阪湾圏域の海域環境保全・再生・創造に関する研究助成制度」に係る業務を受託し、助成を希望する研究団体等を募集し、選考を行った。

・募集期間：令和８年４月１日（水）～5 月７日（木）

・応募件数：16 件

・選　　考：令和８年６月 11 日（木）

(2) 調査研究成果の普及・教育に関する事業

① きれいで豊かな海への挑戦－瀬戸内からの提案－の出版

研究会議が、知事・市長会議からの委託研究の成果を包括的に検討、再編成し、瀬戸内海の環境管理と「きれいで豊かな海」の実現に向けた最新の提言をまとめた報告書を令和8年1月30日に800冊出版した。(販売価格:4,300 円(税抜き))

あわせて、令和6年に企画・実施した座談会の内容を取りまとめた冊子を500部作成し、同日発行した。





② 瀬戸内海研究フォーラム in 香川の開催

産・官・学・民による瀬戸内海に関する学際的な研究や事例発表・会員相互の交流の場とするため、令和７年９月に香川県高松市で「瀬戸内海研究フォーラム in 香川」を開催した。

・日　時：令和７年９月８日(月)～９日（火）
・会　場：サンポートホール高松
・参加者：315 名［1 日目 169 名、2 日目 146 名］
・テーマ：豊かな海の実現戦略
・内　容



９月８日（月）

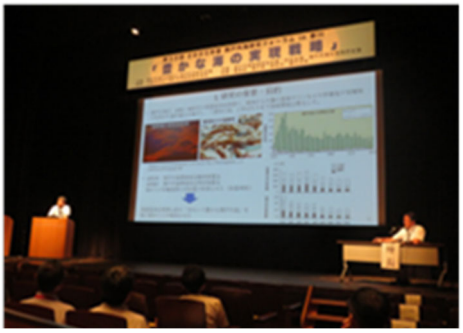
◆ 開会　　13:00 ～ 13:20

趣旨説明　運営委員長：原　直行

◆ 基調講演　　13:25 ～ 13:50

「瀬戸内海における水環境政策～きれいで豊かな瀬戸内海の実現に向けて～」

講演者：西川　絢子（環境省　水・大気環境局海洋環境課　海域環境管理室長）



◆ 第１ セッション　14:00 ～ 15:50

テーマ：「豊かな海」とは？

座長：一見　和彦（香川大学　教授）

☆ 瀬戸内海にとって適正な栄養塩濃度とは？

森本　昭彦（愛媛大学 教授）

☆　瀬戸内海における漁獲組成の変化と今後
　　山本　昌幸（福井県立大学　教授）
☆　五感で楽しむ瀬戸内海のジオフード・ストーリー
　　西村　美樹（香川大学地域マネジメント研究科　協力研究員）

◆ 第２セッション（ポスターセッション）　16:00 ～ 17:55

テーマ：瀬戸内海及びその周縁に関する研究・地域活動報告

座長：中國　正寿（香川大学瀬戸内圏研究センター　特命助教）

☆　ポスター前発表：31 件
（環境分野「自然科学」：13 件、環境分野「技術開発・社会実装」：9 件、人文社会分野「地域活動・市民連携・教育」：9 件）

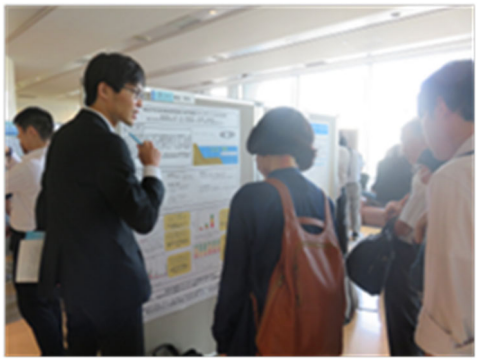
☆　ポスター審査結果：

優秀賞３名

環境分野（自然科学）
鹿島　千尋（大阪大学大学院工学研究科）
「栄養塩類増加措置が瀬戸内海の水質環境に及ぼす影響」

環境分野（技術開発・社会実装）
森山　遥大（香川大学）
「カメラ画像と直接採取を用いた高松市東部を流れる新川の河口堰における河川浮遊ごみの特徴解明」

人文社会分野（地域活動・市民連携・教育）
石山　翔午（NPO 法人クリーンオーシャンアンサンブル）
「効率的なごみ回収方法の探索：小豆島の市民参加型ビーチクリーン」





◆ 特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議　総会　18:00 ～ 18:30

◆ 懇親会　18:40 ～ 20:30

９月９日（火）

◆ 第３セッション　9:30 ～ 11:20

テーマ：瀬戸内海の環境保全と水産業振興に向けて

座長：山口　一岩（香川大学　教授）

☆　藻場造成技術の開発とブルーカーボンへの貢献
　　末永　慶寛（香川大学　教授）
☆　豊かな里海づくりのための網袋を用いたアサリの育成
　　後田　俊直（広島県立総合技術研究所保健環境センター）
☆　高速増殖型珪藻の水産業利用に向けた活用術
　　一見　和彦（香川大学　教授）

◆ 第４セッション　　12:30 ～ 14:20

テーマ：プラスチック環境汚染に対する取り組み

座長：石塚　正秀（香川大学　教授）

☆　香川県における海ごみ対策の取組
　　田中　千晶（大阪公立大学大学院現代システム科学研究科　准教授）
☆　かがわ里海ガイドによる瀬戸内海の海洋プラスチックごみ回収の記録
　　森田　桂治（（一社）かがわガイド協会）
☆　豊かな大阪湾をめざして　～大阪湾における令和の里海づくり～
　　中谷　祐介（大阪大学　准教授）

◆ 表彰式・閉会式　　14:30 ～ 15:00





③　瀬戸内海の環境保全・創造研究ワークショップの開催

地球温暖化が進む中にあって、瀬戸内海における水質や魚類の状況、海洋環境・生態系や藻場生態系への影響の予測、および新しい生態系モデル開発についての最新の知見を紹介し、参加者との議論を通してこれからの瀬戸内海を考えていくこととした。

・日　時：令和７年12月11日（木）13:15～17:00
・会　場：スペースアルファ三宮　中会議室（神戸市中央区）
・参加者：161名（21名が会場出席、140名がWeb出席）
・テーマ：地球温暖化による瀬戸内海への影響を考える
・内　容：

◆ 開会・挨拶

多田　邦尚（瀬戸内海研究会議 理事長）

◆ 趣旨説明

駒井　幸雄（瀬戸内海研究会議　企画委員長）

◆ **発表者**

☆　気候変動が瀬戸内海へつながる湖の水質と水質保全対策に与える影響
　　永禮 英明（岡山大学　学術研究院 環境生命自然科学学域 教授）

☆　気候変動に伴う暖冬がもたらすマダイの越冬域の変化と漁獲量の増加
　　山本 昌幸（福井県立大学 海洋生物資源学部 教授）

☆　瀬戸内海における養殖ワカメの気候変動影響予測
　　鬼塚　剛　（国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所　環境・
　　応用部門 沿岸生態システム部 漁場生産力グループ グループ長）

☆　今後 100 年間に生じる水温変動が藻場生態系に与える影響と今後の可能性
　　島袋 寛盛（国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所　環境・
　　応用部門 沿岸生態システム部 漁場生産力グループ 主任研究員）

☆　気候変動緩和と豊かな海創造を堆積物と水を統合して考える
　　ープロセスベース生態系モデル 開発の試みー
　　相馬 明郎（大阪公立大学大学院工学研究科 教授）





④　瀬戸内海環境保全トレーニングプログラムへの支援・協力

(公社)瀬戸内海環境保全協会が、会員の新たに水環境保全業務に従事する職員を対象に実施している「瀬戸内海環境保全トレーニングプログラム」の講師に関して、協力した。

・日時　　：令和７年10月22日（水）～10月24日（金）
・場所（講義）：安芸区民文化センター（広島県広島市）
　（現地研修・視察）：さとうみ科学館　　（広島県江田島市）
・参加者：27名（10府県14市）
・内　容：

◆ **講義**

☆　瀬戸内海の海洋環境総論～豊かな海づくりのために～
　　多田　邦尚（香川大学名誉教授）

☆　瀬戸内海における環境政策と未来の方向性
　　森川　政人（環境省水･大気環境局環境管理課環境創造室　室長）

☆　瀬戸内海の水環境・生態系管理
　　西嶋　渉　（広島大学　教授）

☆　高松市東部の河川と海域におけるプラスチックごみの特徴
　　石塚　正秀（香川大学　教授）
☆　広島県における水環境保全の取組み
　　福富　裕之（広島県環境県民局環境保全課　参事）

◆ 現地研修（視察）

☆　広島カキへの海域用施肥材の検討について
　　中原　真哉（（一財）広島県環境保健協会環境保全課　課長補佐）
☆　瀬戸内海の海洋プラスチックごみを考える
　　馬場田真一（（一財）広島県環境保健協会地域支援課　主査）
☆　里海を地域資源とした「特色ある教育」の推進
　　西原　直久（大柿自然環境体験学習交流館（さとうみ科学館）　館長）

◆ 干潟観察

◆ ワークショップ

☆ アドバイザー：松田　治（広島大学 名誉教授）



講　義



現地研修（干潟観察）

(3) 提言に関する事業

知事・市長会議総会において、同会議より委託を受けた瀬戸内海の環境保全・創造に係る令和６年度研究成果について、多田理事長から報告を行い、行政施策への活用の提言を行った。

・日　時：令和７年７月 30 日（水）
・場　所：J:COM ホルトホール大分
　　（大分県大分市）



(4) 分科会の開催

① 日本財団研究プロジェクト申請に関する分科会

助成財団等からの調査・研究助成の獲得に努めるため、分科会を設置し、意見交換等を行った。分科会メンバーは以下のとおり。

（分科会メンバー）
児玉　真史、多田　邦尚、西川　哲也、日高　健、山本　昌幸、吉江　直樹（五十音順）

ア　第１回分科会

・日　時：令和８年３月 13 日（木）９時 30 分～11 時
・場　所：瀬戸内海環境保全協会　事務室（対面、Web）

イ　第２回分科会

・日　時：令和８年５月 14 日（木）９時 30 分～11 時
・場　所：瀬戸内海環境保全協会　事務室（対面、Web）

②　瀬戸内海研究会議・人文社会科学分科会

人文社会科学に関心を持つ研究者の発掘を行い、同会議への参画を促すとともに、関係する知識や情報の共有と研究体制の強化を図るため、分科会を設置し、分科会を開催した。運営委員は以下のとおり。

（運営委員）

仲上 健一、原 直之、原田 禎夫、日高 健、樋渡 彩、松田 治、鷲尾 圭司（五十音順）

ア　第１回分科会

・日　時：令和８年２月 24 日（火）
・場　所：神戸市中央区文化センター　11 階　特別会議室（対面、Web）

(5) ホームページによる情報発信

研究会議が実施する各種事業の周知及び調査・研究事業の推進等を図るため、会員相互の情報ネットワークとして、令和 6 年度に研究会議のホームページのリニューアルを行った。このホームページを活用し、情報発信を行った。

３．事業実施体制

(1)　会議に関する事項

①　令和７年度通常総会

・日　時：令和７年９月８日（水）　18：00～18：30
・場　所：サンポートホール高松 4 階　第１小ホール（香川県高松市）
・内　容：第１号議案　令和６年度事業報告及び決算報告に関する件
　　第２号議案　役員の選任に関する件
　　報告事項１　令和７年度事業計画及び予算
　　報告事項２　企画委員の選任
　　報告事項３　会員の入会状況等

②　理事会

ア　第 28 回理事会

・日　時：令和７年７月 23 日（水）
・場　所：書面開催
・内　容：第１号議案　令和６年度事業報告及び決算報告に関する件（総会付議事項）
　　報告事項１　会員の状況
　　報告事項２　令和７年度通常総会の開催

イ　第 29 回理事会

・日　時：令和８年 6 月 26 日(金)
・場　所：神戸市立中央区文化センター 1002 号室（神戸市中央区）
・内　容：通常総会付議事項
　　役員等への年齢上限導入に関する件
　　企画委員会委員の選任に関する件

③ 企画委員会

ア　第 1 回企画委員会

・日　時：令和７年 11 月 13 日（木）13：30～16：30
・場　所：神戸市立中央区文化センター 1003 号室（神戸市中央区）
・内　容：令和７年度事業の実施状況
　　令和８年度事業計画

イ　第２回企画委員会

・日　時：令和８年２月４日（金）14：30～16：30
・場　所：神戸市立中央区文化センター 1103 号室（神戸市中央区）
・内　容：役員の解・選任
　　会員数の増加に向けて
　　令和 7 年度事業の進捗状況
　　その他

ウ　第 3 回企画委員会

・日　時：令和８年 6 月 11 日（木）13：15～16：45
・場　所：神戸市立中央区文化センター 1003 号室（神戸市中央区）
・内　容：令和７年度事業実施状況
　　令和８年度事業計画案並びに予算案
　　瀬戸内海研究フォーラム in 京都
　　企画委員、役員の選任
　　その他

(2) 会員に関する事項（令和８年６月 30 日現在）

・会員数：個人会員　100 名　　団体会員　15 名　　合計　115 名・団体

(3) 連携団体

・瀬戸内海環境保全知事・市長会議
・公益社団法人瀬戸内海環境保全協会
・大阪湾広域臨海環境整備センター
・公益財団法人国際エメックスセンター